

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	演芸
----	------	----	----

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	無	応募総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきしゃだんほうじん らくごげいじゅつぎょうかい 公益社団法人 落語芸術協会	団体ウェブサイトURL https://www.geikyo.com
代表者職・氏名	会長 田ノ下雄二	
制作団体所在地	〒160-0023 最寄り駅(バス停) 西新宿 東京都新宿区西新宿6-12-30 芸能花伝舎2F	
電話番号	03-5909-3080	
ふりがな 公演団体名	こうえきしゃだんほうじん らくごげいじゅつぎょうかい 公益社団法人 落語芸術協会	団体ウェブサイトURL https://www.geikyo.com
代表者職・氏名	会長 田ノ下雄二	
公演団体所在地	〒160-0023 最寄り駅(バス停) 西新宿 東京都新宿区西新宿6-12-30 芸能花伝舎2F	
制作団体 設立年月	昭和5年10月	
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等
	代表理事(会長)/春風亭昇太 代表理事(副会長)/春風亭柳橋 理事/三笑亭夢太朗 他13名 常任理事(事務局長)/田澤祐一 監事/桂歌助 他2名	団体構成員:232名 主な構成員:春風亭昇太・春風亭柳橋・三遊亭遊三・桂米助・三遊亭小遊三・桂宮治・神田松鯉・ナイツ・宮田陽昇 加入条件:落語を専門の業とするもので3年以上の経験を有する者、および落語以外の寄席芸能実演家でこの法人の目的に賛同して入会した者。
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名 伊藤崇将
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者 田澤祐一
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	ito@geikyo.com / ito110geikyo@gmail.com	

<p>制作団体沿革・ 主な受賞歴</p>	<p>昭和05年 会長春風亭柳橋(先々代)、副会長柳家金語楼が日本芸術協会を設立。 昭和09年 柳亭左楽が会長を務める落語睦会を合同する。その後桂小文治(先代)が副会長となる。 昭和49年 古今亭今輔(先代)が会長に就任。 昭和51年 桂米丸が会長に春風亭柳昇が副会長に就任。 昭和52年 文化庁より社団法人の認可を受け、社団法人落語芸術協会と改称。 平成11年 桂文治(先代)が会長、桂歌丸が副会長に就任。 平成16年 桂歌丸が会長、三遊亭小遊三が副会長に就任。 平成23年 4月 1日 公益社団法人の認可が下り、公益社団法人落語芸術協会と改称。 平成30年 7月 2日 会長桂歌丸が死去。平成30年6月総会にて、三遊亭小遊三の会長代理兼任が決まっていたため、代表理事として三遊亭小遊三が会長代行を務めた。 平成元年 6月27日 春風亭昇太が会長に、春風亭柳橋が副会長に就任。現在に至る。</p>		
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>当事業にて平成15年より全国各地で毎年平均20校程度巡回公演を実施。 台東区の小学校約20校を対象に、浅草演芸ホールにて平成16年から毎年数十日公演。 横浜市の小学校約20校を対象に、横浜にぎわい座にて平成17年から6月・10月頃に5日間程度ずつ公演。 平成27年からは東京都アーツカウンシル事業、平成28年からは新宿区・東京オリンピック・パラリンピックを契機とした伝統文化理解教育で各10～15校程度公演を実施。 依頼公演としては、平成24年6月学習院初等科、平成28年10月江戸川区小岩小学校、平成29年柏市立松葉第一小学校、平成29年6月日大山形高等学校平成30年10月横須賀市立神明小学校、大森学園高等学校、令和元年7月慶應義塾湘南藤沢中等部・高等部等。 (記載のない年も多数実施しており、毎年継続している学校もあり実績を積んでおります)</p>		
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>平成22年03月 広島県立広島特別支援学校 平成22年11月 長崎市立桜が丘特別支援学校 平成25年02月 北海道帯広盲学校 平成28年01月 都立矢口特別支援学校 平成28年09月 南大沢学園特別支援学校 平成29年06月 都立江東特別支援学校 平成29年07月 都立品川特別支援学校 平成29年09月 南大沢学園特別支援学校 平成29年12月 葛飾区立保田しおさい学校 平成30年07月 都立品川特別支援学校 令和03年07月 中野区立第二中学校特別支援学級 令和03年12月 福島県立相馬支援学校</p>		
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>	
	<p>※公開資料有の場合URL</p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	
		<p>PW:</p>	

別添	なし			
公演・ワークショップの内容		【公演団体名 公益社団法人 落語芸術協会】		
対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	「寄席」を体験しよう！～着物で演じる人も聞く人も「ここで一席、よっ日本一！」～			
企画のねらい	江戸時代より受け継がれてきた落語を生で鑑賞して親しみを持ってもらい、敷居が高いと思われがちな伝統芸能がまったく難しくなく笑える楽しいものである事を知り、その他の芸能や演目への興味を深め知見を高めるきっかけになるようワークショップと公演を行います。落語という芸芸に触れる機会が少ない中、長い期間の修行を経た落語家が落語の成り立ちから人物の演じ方や仕ぐさの解説、寄席囃子の実演や太鼓を始めとする鳴り物の意味を説明し、江戸時代から続く大衆芸能の楽しさと迫力、自分の頭の中で想像して聞き楽しむ話芸に触れて、本物の寄席演芸を実体験してもらいます。短い小唄と太鼓を代表の子ども達に本公演前に練習してもらい、公演では本格的な寄席のセットを組んだ高座で紋付袴を着用して発表を行い、舞台上立つ緊張や難しさ、同じ学校の子も違から笑いをとる感覚を体験します。			
演目概要・演目選択理由	落語は基本的に演目を決めず、その時のお客様の状況を見て演者が決めるため、何百席あると言われる古典落語の中から学校公演でよく演じられ、落語を初めて鑑賞する子供にも受け入れられやすいネタを演じます。登場人物も落語に出てくる典型的な人物で分かりやすく、表情やしぐさも面白く、つい笑ってしまうような楽しい内容です。オチも秀逸で、寄席でもよくかかる演目です。※学校から演目の希望があれば出来るだけ対応し、優先して口演します。			
児童・生徒の参加又は体験の形態	●落語(小唄)での共演 出演者の落語を鑑賞する前に、児童生徒の代表に短い落語(小唄)を高座で披露してもらい共演する。この際、和服・袴を着用し、高座返し・めぐり返しなど普段前座がやっている役割を担い出演者の一員として共演する。 ●出囃子(太鼓)での共演 ※落語(小唄)代表児童の出囃子の太鼓を演奏 出囃子(公演中、出演者が入れ替わる際に演出する寄席囃子のこと。三味線と太鼓で成り立っている音楽)を、児童生徒の代表が太鼓演奏を行い、舞台上で当協会のお囃子(三味線演奏者)と共演し、公演を演出する。この際、和服・袴を着用し、出演者の一員として共演する。			
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	6名(落語小唄3名、出囃子太鼓3名)	
		鑑賞人数目安	300名程度	
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	上記の演目選択理由でも記載しましたが、演目は古典落語の中からわかりやすいネタを落語家が当日決めます。 ●「牛ほめ」 ●「初天神」など、子供たちにも理解しやすい演目を予定。 原作:古典落語のほとんどの演目は、原作者不明とされている。 脚本:この落語会で演じられる古典落語は、江戸時代から継承される口演台本があるが、必ずしも全てが明文化されているわけではなく、ほとんどが師匠などからの口伝によるものである。 演出:師匠から教わったものを基本として、演者それぞれ経験からしぐさや言い回しを工夫し、自ら演出する機会がほとんどである。 ※古典落語は口伝により自由に演じられることで大衆に広まってきた背景もあり、慣例から口演することに関して著作権は特にない。 公演時間 90 分			
出演者	①落語 [前 座] 春風亭 昇ちく(予定) ②落語 [二ツ目] 雷門 音助(予定) ～仲入り(休憩)～ ③曲芸 鏡味 正二郎(予定) ④落語 [真 打] 三笑亭 夢丸(予定) 他 お囃子1名			
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	◇三笑亭 夢丸[真打] 2001年 初代三笑亭夢丸に入門。2006年 二ツ目昇進。2015年5月 二代目三笑亭夢丸で真打昇進。 ◇雷門 音助[二ツ目] 2011年 九代目雷門助六に入門。2016年 二ツ目昇進。 ◇鏡味 正二郎[色物・太神楽曲芸] 1998年 第一期国立劇場太神楽研修修了後、鏡味繁二郎に入門。太神楽曲芸協会理事も務める。			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 6 名 スタッフ: 4 名 合 計: 10 名	運搬	積載量: 1 t 車 長: 4 m 台 数: 1～2 台	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		無		前日仕込み所要時間		2.5		時間程度	
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去		退出		
	9時	9時～11時30分		13時30分～15時10分	10分	15時30分～17時		17時		
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。										
本公演 実施可能日数目安 <small>※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)</small>	6月		7月		8月		9月			
	10日		10日				10日			
	10月		11月		12月		1月			
	15日		15日		10日					
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。					計		70日			
公演に係るビジュアルイメージ <small>(舞台の規模や演出がわかる写真)</small>										
	※採択決定後、図面等の提出をお願いします。	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p> 体育館ステージ上に寄席舞台を設営します。各学校に合わせて調整可能ですので、広さに指定はございません。 </p> <p> 【出演者番組】予定 ①落語（前座） 春風亭昇ちく ②落語（二ツ目） 雷門音助 ～仲入り(休憩)～ ③曲芸 鏡味正二郎 ④落語（真打） 三笑亭夢丸 他 お囃子1名 </p> </div>								
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否					該当コンテンツ名				
	該当事項がある場合		権利者名				許諾確認状況			

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

【公演団体名 公益社団法人 落語芸術協会】

ワークショップのねらい	<p>落語家と直に接することにより、修行を積んだ落語家の声の発声や人物の演じ分け、会話の間合いや落語のオチというものを実感してもらい、人に物事を伝えるにはどう工夫したら良いかを自ずと考える機会になる。実際に高座を体験すると、緊張も含めて人前で話したり演じたりすることの難しさや伝わった時の喜びを感じることができ、自信を持ちコミュニケーション能力の向上にも繋がると考えている。和服姿の落語家を間近に見て、着物と和服への関心も高まる。</p> <p>また出囃子の太鼓を叩く際に、小唄を演じに高座へ上がる代表生徒児童が出やすいように叩くことを伝えて、他者への配慮や気配りを経験してもらう。</p> <p>三味線と太鼓の演奏を間近で聴き体験することで、和の伝統音楽にも関心が持てる。</p>		
児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	300名程度
ワークショップ実施形態及び内容	<p>プロの落語家が着物姿で高座の座布団に座り、落語の成り立ちや演じ方などの落語解説、所作や扇子と手拭いの道具の説明(その場で指導し生徒・児童にも一緒に同じ所作をしてもらう。何を表現しているのかクイズ形式のやり取り等も行う)、一部線香即席唄(会話のみの短い小唄)を演じる。</p> <p>演じる際に右と左で人物が変わる「上下(かみしも)」を解説し、その意味や上手・下手で登場人物の関係性が変わる事などを説明する。</p> <p>三味線と太鼓で演奏する出囃子や鳴り物の実演と解説。一番太鼓・二番太鼓・追い出し太鼓などの寄席で演奏されている太鼓の実演、落語の中での効果音、各落語家の出囃子を演奏。</p> <p>上記で解説した扇子や手拭いを使った所作や小唄、出囃子の太鼓を希望者に体験してもらう。</p> <p>本公演で発表をする代表児童・生徒への指導を行う。時間があれば落語一席を実演する。</p> <p>実施場所は多目的ルームなどのコンパクトで集中できる環境が適しているが、参加人数や学校の希望などに沿う形で、体育館での実施も可能。長机などを利用して簡易的な高座を設営し、上記の通り希望者には高座に上がり体験してもらう。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■講師(真打及び二ツ目の落語家)の紹介～落語解説 「落語」ってどういうもの?など簡単に説明 ■小唄(短め) いくつか講師が実演 ■所作 落語のしぐさ 講師が扇子と手拭いで落語の代表的なしぐさ(本を読む・財布からお金を出す・箸を使う・刀を抜く等)を実演 ☆体験 みんなもその場で一緒に蕎麦を食べるなど、しぐさを一緒に演じる。希望者や講師からの指名で何人か実際に高座に上がってしぐさや小唄(短め)を演じる ■本公演代表(落語小唄)へのアドバイス等 <p>講師が本公演でする小唄の一部実演して、代表3名に要点を教える。</p> <p>高座(座布団)返しも教え、座布団の三方の説明と使い方(切れ目を相手に向けない)を伝える。</p> <p>～休憩(5分～10分)～ ここまでおよそ45分</p> <ul style="list-style-type: none"> ■鳴り物 太鼓・出囃子など 落語家が高座に上がるときに流れる音楽(出囃子)や始まり終わりの合図(太鼓)について解説 ・一番太鼓、二番太鼓、追い出し太鼓、落語の中での効果音としての太鼓を説明 ・出囃子の解説 お囃子(三味線奏者)の曲に合わせて、いくつか講師が太鼓を実演 ☆体験 みんなもその場で出囃子の三味線に合わせてヒザを叩いて太鼓のリズムを覚える。希望者には実際に太鼓を体験してもらう ■本公演代表(出囃子太鼓)へのアドバイス <p>太鼓代表は三味線に合わせて太鼓を叩いて練習する。強弱やリズムをお囃子さんと協力して叩くことで、息を合わせて演奏することを体験する。</p>		
その他ワークショップに関する特記事項等	<p>本公演で小唄と太鼓の代表発表をする児童生徒にワークショップ内で指導を行うが、短時間での実施になるため、学校にビデオカメラを準備していただき落語家の実演を録画して、本公演まで個々に練習をしてもらうことをお願いしている。</p> <p>視覚障害の児童生徒に対しては、ワークショップ・本公演ともに丁寧に状況を説明し様子が想像しやすいよう工夫する。落語は聞いた内容を想像して楽しむことができるので特に問題ないと思われるが、本公演の演芸に関しては目で見て楽しむ物(太神楽・奇術など)から耳で聴いて楽しめるもの(動物ものまねなど)に差し替えるなど学校の状況と確認しながら調整する。聴覚障害の児童生徒に対しては、学校の先生と相談しながら落語の内容が事前にわかる工夫などを行い、鑑賞を楽しめるようにする。</p>		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
本事業への応募理由	【公演団体名 公益社団法人 落語芸術協会】
<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢 江戸時代に成立し現在まで受け継がれている落語の演じ手は、セットも衣装も使わず着物姿と座布団に正座した形で1人で何人もの登場人物を演じ分け、扇子と手拭いのみを使っていろいろなものを表現する。受け手側は想像力を働かせ、どんな性格の人物なのか周りの状況や情景を頭の中で描きながら落語を楽しむ。子どもたちにSNSなどの視覚のみで楽しむエンターテインメントだけでなく、想像力を使っての芸能の楽しみ方を経験して欲しいと考えている。初めて落語を体験する児童生徒が想像しやすいうように、講師を務める落語家はどうか伝えたら良いかを工夫し、それぞれの学校に合わせた柔軟な対応をしていく中で、落語家自身にも「落語」を客観的に捉え、解説することにより得られたと思える技量、落語家個人の資質の向上が見られた。それまで自分の裁量で演じてきたものを、具体的に説明することで、自分の技術のまとめが自ずとでき、落語家としての成長にまで繋がっている。</p> <p>一方で子供たちは、落語を直接生で聞いたことがなく、「笑点」を見て、この大喜利の形を落語と知っていることも多く、ワークショップと本公演で落語を知ること、より落語の面白みや楽しさを実感し興味を持つと同時に、鑑賞する中で想像力を養い、人に物事を伝える工夫などを感じ取り、コミュニケーション力の向上にも繋がってくると思う。</p> <p>また地方では落語会自体が少なく、落語や演芸という文化に児童生徒が生で接する機会がなかなかないことから、子供を対象としたこの事業は、子供のうちから本物の落語の素晴らしさを伝えることができ、興味を持つきっかけとなり、大衆文化としての落語や演芸の普及にも役立つと考える。本格的な寄席囲いのセットを設営し、三味線と太鼓を下座で生演奏し、前座→二ツ目→色物→真打という東京の寄席と同じ流れで口演する事により、各学校で東京の常設の寄席と同じ進行で鑑賞することができる。</p> <p>これらのことから、この事業に参入し続ける意義は非常に高く、優れた事業であると10年以上この事業に参加して実感している。この事業への参加を継続していくことで、「大衆文化」としての落語を改めて身近に感じることでできる土壌作りとして役立て活動していきたい。今後も文化庁の指針に沿って、本物の芸能の良さ、日本の芸能との触れあいを中心に、落語を「大衆芸能」として再び隆盛させるため事業への参加を継続していきたいと考えている。</p> <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫 ワークショップ・本公演の概要をまとめた資料を事前に送り、その後、学校へ連絡する中で調整しながら、開催校の状況に合わせて柔軟に対応できるよう準備を進める。ワークショップでは会場に簡単な高座を設営し、少しでも特別な場所を演出。太鼓も本公演に近い【吊り太鼓】で体験できるよう、組み立て式の木枠を作成し準備。児童・生徒の体験に際し、より落語の実演に近い状態で実施する。体験の子どもたちは高座に上がることによって、落語家が普段見ている景色を体感し、人前に出ることの大変さ、落語を演じることの難しさを知ると同時に、それをやり切ったことで達成感や自身にもつながる。また、本公演で落語(小噺)を披露する代表児童・生徒にとっては、公演当日のリハーサルとして稽古に臨むことができる。ほかにもみんなで一緒にしぐさや太鼓の手を真似たり、クイズ形式を取り入れ、できるだけ参加・体験でき、みんなで楽しめるように考えている。</p> <p>本公演では代表の児童・生徒が楽しく演じることができるよう、リハーサルでポイントをアドバイスし盛り上げて自信を持ってもらえるよう努める。普段皆で使っている体育館のステージに本格的な寄席の舞台セットを設営し、自分たちの学校でありながら非日常的な空間で集中して鑑賞できるようにする。演目は中学校の場合は少し難しいものを選ぶなど学校に合わせて番組を工夫する。</p>